

全校生が一堂に会し 生徒会総会



学校生活のアップデートをめざして

五月二十八日(火)前期生徒会総会が行われました。中学校の生徒会活動には最も小さな単位としての学級活動、学校生活を支える委員会活動、全校生の大部分が所属する部活動、さらにそれらを取り仕切るとともに生徒会行事を企画し運営する本部役員の活動があります。そして生徒会活動は、生徒による自治的な組織とされている。学校生活を送る上での問題点や課題などの解決をめざし、教職員をはじめ周囲の大人に頼るだけでなく、自分たちで考え、自分たちで話し合い、自分たちで解決していくことも必要です。また、そこには責任が伴います。嘘があったり、特定の人にだけ利益があったりすれば、結論がゆがんでいきます。子どもたちにとって、学校における活動は、前述したいずれかの所属での活動となります。組織の一員としての責任を感じつつ学校生活を送り、日々変化する社会環境に対応しアップデートできる集団に成長して欲しいと考えます。そして、その活動を支える教職員がいる、そんな中学校でありたいものです。

震度6強を想定し 避難訓練



五月二十四日(金)に避難訓練を実施しました。今回の想定は震度6強の地震で校舎が倒壊する恐れがあるというものです。東日本大震災から十三年が経ちました。今の二年生が生まれた年に起きたこととなりますので、震災の記憶のある中学生はいない状況となります。県では、いずれは、このような世代となることを想定し、放射線教育も含め、防災教育を進めてきましたが、実体験をもつ世代との温度差は否めません。地震の度に津波の被害に瀕する岩手県には、「津波でんどこ」といって、津波の際には、親兄弟も構わず、ばらばらに逃げ、まずは自分の命を優先する、という言い伝えがあります。これだけ聞くとは薄情な印象も受けますが、実は災害の時にどう動くべきかを、事前に家族や地域で決めておき、避難した先で会えるようにしておくということも含むようです。本校は水害の恐れのある地域にあることも踏まえ、様々な災害に対し、自分の命を優先しつつ、中学生としてできる備えをもつとともに、地域に貢献する立場としての意識を育てていきたいと考えます。

中体連 シーズンスタート



[教育目標]
健 自 貴
康 主 任

小原田中だより

令和6年5月号
郡山市立小原田中学校
校長 関根宏房
ホームページURL
<https://www2.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=0720007>



県中陸上を皮切りに

五月十五日(水)、十六日(木)の二日間、県中地区陸上大会が田村市陸上競技場において行われました。一日目は快晴、二日目は時折雨の降る天気となりましたが、競技をする子どもたちには、暑過ぎず、寒過ぎずのちょうど良い気温であり、持てる力を十分に出し切ることができたのではないかと思います。小原田中からは、二十種目に二十六名が出場し、そのうちリレー二種目を含む七種目で決勝に進出し、五種目で県大会への切符を手に入れました。本校特設陸上部員は、大会の一ヶ月前より、早朝、そして放課後の常設部活動前の限られた時間で練習を積み、陸上を専門に練習する強豪達との戦いに臨みました。同じような状況の学校も数多く出場しており、スタートでの失格も目立つ中、一人の失格者も出さず、最後まで戦い抜いた姿は、大変すばらしいものでした。この大会を皮切りに、令和六年度の中体連の大会がスタートします。彼らの活躍は、今シーズンのスタートに大きな弾みをつけてくれました。これまで、練習を支えてくれた家族や先生方、そして練習時間確保のために、代わりに清掃に取り組み応援してくれたクラスの友だちへの感謝の気持ちをお忘れずに、県大会でも活躍して欲しいと思います。今後の特設陸上部員の活躍に目が離せません。

